

中田町自主防災会の取り組みから学ぶ



第2回コミュニティ定例会が6月19日(日曜日)、中田公民館で行われ、その席で、会員の岩石氏から中田防災会の取り組みについての講話があった。

スクリーンにスライドを映し、ユーモアを交えながら普段遣いの口調での説明に、参加していた第4地区役員および各自治会の代表それぞれに聞きやすくわかりやすい講演となった。

演となった。

取り組みの内容については、まず中田町防災会員での話し合い(会合)でいろいろな意見を出し合い、何をやるべきか共通理解を持ったこと。利根川堤防見学を実施し、中田町と水害、水害に対する減災、うまい避難の仕方(いつ、どこへ、どのように、情報の取り方)、水害に備えるリーフレット作成、回覧配布と読んでもらう工夫、避難行動要支援者への支援等々、いろいろな観点から「減災」に重きを置いた内容であった。特に岩石氏が強調していた「イザとなる前に避難行動開始、安全・確実にいける避難先へ」このことが第4地区各自治会に広まり、地域の方々の命を守ることにつながることを願いたい。(文責 小森谷)

再確認 コロナ感染予防と熱中症対策

- ① 屋外で人と十分な距離がとれる場合は、マスクをはずすようにしましょう。
- ② 熱中症予防にはエアコンの活用が有効です。コロナ対策のために換気をしましょう。
- ③ のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を。(1日あたり2ℓ)
- ④ 体調に異変を感じたら、涼しい場所に移動して休憩しましょう。
- ⑤ 日頃の健康管理に気をつけましょう。(厚生労働省パンフから))

洪水・避難に備えて

NJB 中田町自主防災会の活動

私たちの町は・・・

右の写真をご覧ください。左上から流れてくるのは利根川、右上からは渡良瀬川、ここは合流地点、濁った水が堤防の最上部まで一杯でぞっとする光景です。これは、令和元年10月12日～13日にかけての台風19号のときの写真です。

このときは古河市でも避難所が開設され、多くの人が避難したことを記憶しておられることでしょう。

そしてこの画面の右下、JR宇都宮線のすぐ下に住宅が集まっているのが私たちの住む中田町です。



もし、利根川か渡良瀬川が氾濫、さらに堤防が決壊したら、私たちの町は家屋の浸水どころか、水の奔流で家屋ごと破壊される危険があったのです。一刻も早く避難するしかないところに私たちは暮らしているのです。

中田町自主防災会は・・・

平成29年4月に、それまで名簿もメンテナンスされずに形骸化していた自主防災会を再編成することで結成しました。きっかけは市役所から自治会長に「避難行動要支援者名簿」が届いたことです。その2年前には「関東・東北豪雨」で常総市で鬼怒川が堤防決壊、大水害が発生しており、利根川に接して住む中田町自治会も、命を守るための避難について真剣に考えないといけない、という漠とした不安と焦りを感じていました。

「中田町自主防災会」の現在の概要は次の通りです。

- ・名 称：中田町自主防災会（以下略称：NJB／エヌジェービー）
- ・会員数：20名／定員制限なし
- ・任 期：制限なし（ノウハウの蓄積が大事、任期があるのはかえって不都合）
- ・会 員：自治会長による選抜・委嘱（主旨・意義を共有して協力できる人）
- ・会 長：自治会長ではなく専任できる人（消防・警察OBなど）
- ・活 動：主に利根川・渡良瀬川の氾濫・堤防決壊等による水害発生時に備えた避難行動要支援者に対する支援活動の仕組みづくり、ならびに町内一般への啓蒙広報活動

支援活動1／三年前の台風19号では避難同行も

令和元年10月12日～13日にかけての台風19号の大雨による利根川の氾濫危機のときには、多くの人が日付が変わった13日の午前1時～3時という深夜から未明にかけて様々な避難行動をされたようです。このときNJBは12日の午前中から行動を開始し、避難の判断が難しい人に避難行動開始を促す連絡をし、そして避難行動が本当に困難な3人の人を自主避難所等へ避難同行（送り届ける）しました。

※この自主避難所は「はなももプラザ」で、指定避難所（二高など）に先立って臨時に開設されたものです。

支援活動2／「避難行動要支援者名簿」を独自に整備

このような活動ができた背景には、NJBが独自に整備した「避難行動要支援者名簿」があります。これは自治会を通じて要支援者を募り直し、個別訪問（家庭訪問）を実施して実情を把握した上で名簿を整備し、さらに要支援者ごとに支援の程度（ランク）と担当者を設定したものです。



啓蒙活動1／リフレットを作成、自治会全戸に配布

次のような内容を記載しております。

- ・どの地域に、どれぐらいの雨がふれば危険なのか（危険察知）
- ・行政が発する避難情報（避難準備・勧告・指示等）の種類と意味
- ・避難先のいろいろ（避難所、緊急避難場所、親族知人宅など）
- ・避難行動のモデル例

啓蒙活動2／回覧紙「地震・カミナリ・火事・オヤジ…そして洪水」を毎月発行

次のようなことを呼びかけ続けております。

- ・市の指定避難所以外の避難先を決めておく
- ・情報に敏感に、そしてこまめにチェックを
- ・イザとなる前にクルマで安全・確実に避難を
※クルマを失わないためにも…
- ・怖くなってからの避難はパニックと隣合わせ



「イザになったら避難所へ避難…」の意識を変える

NJBはこれと正反対のことを呼びかけています。

それは…

「イザとなる前に、ゆとりをもって、指定避難所じゃない避難先へ、あらかじめ避難」です。

指定避難所、特に古河二高は、中田町の人々にとって、市の避難情報が出てから避難をしても、すでに満員で、入れる可能性は少ない、と言わざるを得ません。それなのにそんなところへ「行きなさい」という指導はできません。

それに、他に行けるところがあるのなら、なにもわざわざ避難所の硬い床の上でなくたって…。



明るく楽しく活動

NJB
遊びごろのエンブレム

Bo-SAI(ボーサイ)
サイに見えるかな？

【参考】令和元年台風19号 自治会班長さん50人にアンケート（回答数47）抜粋

- 避難した人…30人/47（6割以上の方が避難行動をした！）
- 避難した時間帯…10月13日午前0時～3時…24人/30（理由最多：怖くなったから）
- 古河二高の避難所を目指した人…9人/30 → 入れた人…1人/9
- 感想：避難はムダだった、ムダだと思う…0人/47

以上、みなさまの自主防災活動のご参考になれば幸いです。

地域の安全を見守りつづける

青パト実施者講習会を開催



地域の安全・安心を見守って活動する青色パトロール。みなさんもたびたび見かけることがあるのではないのでしょうか。

3年に一度、講習会を実施しておりますが、今年は6月26日に開催され、27名の参加実施者が古河警察署生活安全課の指導のもと、・遵守事項 ・留意事項 ・急訴事案への対応 等について受講しました。

地域の安全はもとより、自身の安全にも関わる内容であるだけに、参加実施者はみな、真剣な面持ちで学んでいました。



古河市立古河第四小学校

令和4年度
本校のキャッチフレーズ

明るく 楽しい きれいな学校

共通実践「元気にあいさつ」

子どもたちの「笑顔」あふれる取組み

保護者や地域の皆様にご協力をいただき、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を進めながらの教育活動も3年目を迎えました。

ブロック別の開催とはなりましたがクローバースポーツデーの実施をはじめ、それぞれの学年が、子供たちの楽しみにしている学年・学級の取組みを計画的に行っています。取組みを通して、互いのよさに気付いたり、自分のよさを発揮したりして、どの子も「笑顔」で生き生きと活動しています。

クローバースポーツデー

**クラスの絆で 一致団結！
ゴールを駆けぬけ 勝利をつかめ!!**



虹に包まれた「古河四小」、とても素敵です。

R3.2月撮影

『古河第四小学校に赴任して』

古河市立古河第四小学校 校長 青木 誠一
古河四小に赴任して2年目になります。「明るく 楽しい きれいな学校」を合言葉に、日々たくましく成長する子どもたちの姿を頼もしく感じています。社会の変化に対応し学校も大きく変わろうとしています。今後とも第4地区コミュニティの皆様方と連携し、笑顔いっぱいの子どもたちを育てていきたいと思っています。